

令和6年度 都城市立大王小学校 学校運営協議会委員評価書

学校の教育目標	知・徳・体・勤の調和のとれた人間性豊で実践力のある児童の育成								総合評価 (全体平均)	【評価の基準】 3.6以上~4.0 期待以上 3.2以上~3.6未満 期待通り 2.4以上~3.2未満 やや期待を下回る 2.4未満 改善を要する
学校経営ビジョン	学校の教育目標を基盤に、 ①不登校(傾向)児童をなくす。 ②個別最適な学びをとおして自己肯定感を高める。 ③協働的な学びをとおして多様性を理解する。 ④地域の人との関わりをとおして地域とつながる児童を育成する。								3.1	
評価項目	手段・ゴールイメージ	評価結果(平均値)			分析・考察等	学校運営協議会委員の意見等	各項目の評価平均値	評価項目の平均値	改善策	
評価項目		職員	保護者	児童						
基礎・基本の確実な定着 と学力の向上	授業のわかりやすさ、学習内容の理解度	3.0	3.0	3.4	/	児童主体の学びの実現に向けICT活用を含め取り組んだが、発展途上である。	○学力向上に関する地域の取組として寺子屋があるが、それ以外にも定期的な取組があつてもよいと思う。どのような取組ができるのか今後検討が必要。	3.1	3.0	【ICT活用】 ○ICT活用については、ツールとしての効果的活用について、主題研究を中心に推進する。
	学習時に話をよく聞いているか	3.2	3.2	3.4	/	3者ともに期待通りの評価。対話的な学びに欠かせない要素であるので今後も取組が必要。		3.3		【授業改善】 ○児童主体の学びの実現のため、都城市教委が示している「わざび」の授業への転換を推進する。
	学習時に自分の考えや意見を進んで言っているか	3.1	2.8	2.7	/	児童・保護者ともに評価が低い。児童が自信をもって発言できる学習指導が必要。		2.9		【家庭学習】 ○児童の興味関心の伸張や学び方を適切に選択する力を育成するため、家庭学習に関する指導の充実を図る。
	家庭学習への取組は十分であるか	2.8	3.0	3.1	/	学習内容の定着はもとより、学習への主体性や効率的な学びのための手立てが必要。		3.0		【読書指導】 ○読書推進のため、週1回の図書室利用の機会確保をする。
	進んで読書に取り組んでいるか	2.9	2.4	3.0	/	読書推進のための時間確保が必要。目標4000冊達成については今後も取り組む。		2.8		
基礎的な生活習慣の定着と豊かな心の育成	学校や地域のルールやマナーを守っているか	3.5	3.3	3.4	/	概ねよい。ルールやマナーを守っていない一部児童には個別に指導が必要。	○スマートフォンやタブレットの使用が日常化しており、食事の時にも手放さないような状況が見られる。子ども自身がルールを守ったり、使い方を考えることには難しく、学校での指導にも限界がある。家庭での教育・社会教育でも連携して取り組んでいく必要がある。 ○タブレットを使う能力は大変高くなっている。一方で、ゲームや動画共有サイトなどの過度の利用で、朝起きられない等、日常生活に影響が出ている児童生徒も見られる。小中連携による指導の工夫が必要である。	3.4	3.3	【ルールやマナーの指導】 ○今後もルールやマナーの意義を指導とともに、道徳指導・人権教育など心の育成に関する指導を充実させる。
	学校や地域、家庭であいさつができるか	3.2	3.2	3.2	2.9	地域での挨拶意識の醸成が必要。個人差や学年差もあり、全校で取り組む手立てが必要。		3.1		【あいさつ指導】 ○日常指導の徹底、小中連携を推進し取組の発展の継続を図る。
	学校が楽しいと感じているか	3.3	3.3	3.6	/	概ねよい。不登校児童やコミュニケーションに課題のある児童への支援が必要。		3.4		【デジタルツール、インターネット活用指導】 ○過度の利用や保護者の管理責任等について理解が浅い現状がある。児童はもちろん保護者も学ぶ機会を提供する。
	友達に思いやりをもって接しているか	3.4	3.4	3.5	/	概ねよい。よい行動を即時教師が評価するなど学校全体へ広げる工夫が必要。		3.4		○学校でのICT活用推進とともに、モラル指導や健康との関連について、具体的かつ科学的な指導ができるよう職員研修を実施する。
	交通ルールを守ったり、危険なことがないようにして、安全に気を付けて生活しているか	3.4	3.3	3.7	3.1	概ねよい。一部児童の問題行動等については個別に対応していく。		3.4		
	ゲームやスマートフォン、インターネットの利用はルールを守っているか	3.1	2.7	3.1	/	全体に低評価。学校のルールだけでなく、家庭でも取組が必要である。		3.0		
基礎体力の向上と健常的な生活習慣の定着	進んで体力向上に努めているか	2.9	3.2	3.4	/	個人差が大きい面はある。学校での体力向上の取組を推進する必要がある。	○食の大切さについての意識に2極化傾向が見られ、進行している印象が強い。食育の大切さについて児童生徒への指導はもちろん、家庭への啓発も小中連携して進めていく必要がある。	3.2	3.1	【体力向上・健康指導】 ○健康に関する意識や取組は個人差が大きい。家庭の責任においてすべきことも少なくないが、学校からの啓発は今後も継続して行う。
	歯磨きの習慣が身に付いているか	3.0	3.0	3.6	/	教師・保護者と児童の評価の差が大きい。歯磨きの仕方やむし歯治療を推進する必要がある。		3.2		【歯磨き指導】 ○歯科医や歯科衛生士による指導を取り入れる等して、内容の充実を図る。
	「早寝・早起き・朝ごはん」など、基本的生活習慣が身に付いているか	2.9	3.1	3.3	/	多くの児童は基本的生活習慣が身に付いている。個人差があり、個別の指導が必要である。		3.1		【食育】 ○児童自身の成長と食の関係について具体的・科学的指導を通して食事への関心を高める。
	好き嫌いなく、適切な食事をしようとしているか	2.9	2.9	3.1	/	保護者へ食育の大切さを啓発するとともに、食に関する指導の充実が必要である。		3.0		
ふるさとのために働く力の育成	児童は、奉仕活動や家庭での手伝いなどを進んでしているか	3.1	2.9	3.5	/	教師・保護者と児童の自己評価の差が大きい。奉仕の心の育成の充実が必要である。	○地区行事については、各地区で呼びかけをしているが、呼びかけの程度については格差がある。公民館加入率にも地区格差があり、課題である。LINEなどのデジタルツールの活用を進めることも考えていく必要がある。	3.2	3.0	【コミュニケーション感覚の醸成】 ○家族や地域のために役立とうとする心の育成のため、参加の機会を増やす手立てとともに児童の頑張りを適切に評価する方法を工夫する。
	地域の行事や活動に参加しているか	2.5	2.7	3.2	2.8	地域の行事や活動についての周知と参加促進の手立てが必要である。		2.8		○主体的に地域へ関わろうとする態度を育成するため、地域と自分たちの生活との関連についての学習の充実(地域人材活用)を推進する。
	学校と地域は連携しているか	/	/	/	2.9	地域からの評価は低い。学校の業務軽減とのバランスをとりながら連携を進める難しさがある		2.9		
その他	学校は保護者からの相談に適切に対応しているか	3.2	3.3	/	/	概ねよい。担任への相談やスクールカウンセラーの活用をさらに推進していく。	○下校時刻の配信が大変よい。細やかに知らせてももらっている。今後も継続して欲しい。 ○送迎の車が多く、公民館駐車場を利用しているため、他の車の出入りに影響することもあった。令和7年度に小松原地区公民館の建て替え工事で駐車場使用ができないこともあり、送迎方法について再考が必要である。	3.3	3.3	○担任からの連絡は積極的に行っており、今後も継続して家庭との連携を図る。
	学校の教育活動が適切に発信・周知されているか	3.2	3.3	/	3.1	概ねよい。メール配信やホームページ活用を継続。地域へは紙での広報も検討する必要がある。		3.2		○下校時刻の定期的なメール配信は好評。デジタルツールの活用を今後も推進する。
	学校は児童が安全・安全に過ごせるよう取り組んでいるか	3.2	3.4	/	/	概ねよい。予算との兼ね合いがあり、すぐに対応できないものもある。順次対応したい。		3.3		○地域への広報は、公民館の回覧等に対応するため紙文書や掲示板活用を行う。 ○施設管理は行政への要望を継続する。